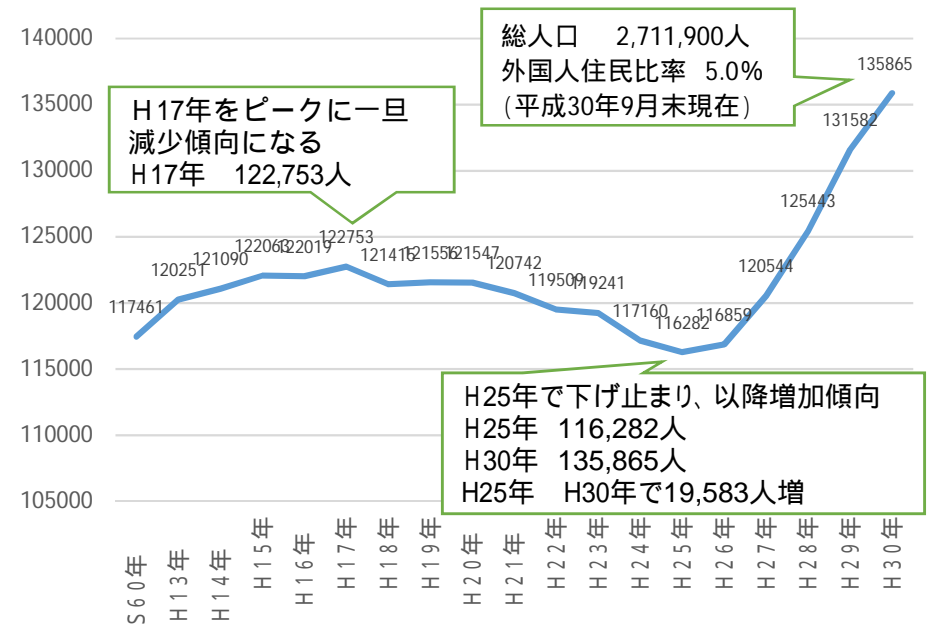
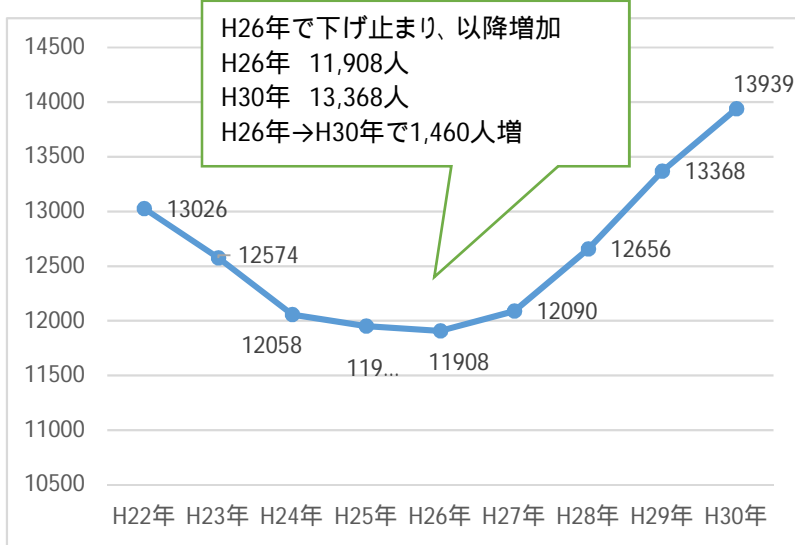


1 大阪市の外国人住民数

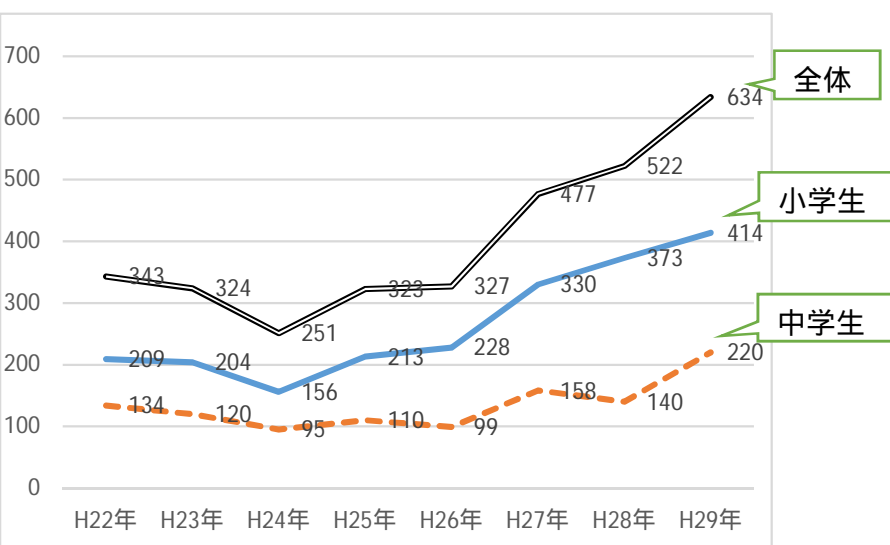


2 0歳から19歳の外国人住民数

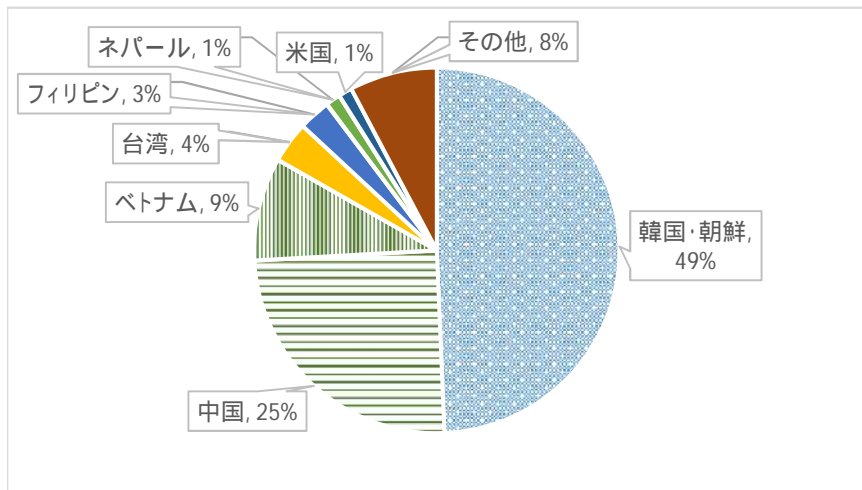


3 日本語指導が必要な児童生徒数

資料6 - 1



4 国籍別内訳 (H30年9月末現在)



国	人数
韓国・朝鮮	67,024
中国	33,665
ベトナム	12,407
台湾	4,970
フィリピン	3,849
ネパール	1,787
米国	1,641
インドネシア	1,406
タイ	1,146
ブラジル	948
インド	603
英国	593
ペルー	477
その他	5,349
合計	135,865

5 増加傾向にある国(上位5か国)

国	H25	H30	増加数	前時点比
中国・台湾	23,495	38,635	10,140	1.4
ベトナム	1,995	12,407	10,412	6.2
ネパール	616	1,787	1,171	2.9
フィリピン	2,936	3,849	913	1.3
インドネシア	494	1,406	912	2.8

6 増加傾向にある在留資格(上位5種類)

資格	H26	H29	増加数	前時点比
留学	10,909	18,500	7,591	1.7
技術、人文知識、国際業務	5,852	8,571	2,719	1.5
永住者	22,360	24,589	2,229	1.1
家族滞在	4,133	5,850	1,717	1.4
技能実習	1,348	2,642	1,294	2.0

7 多文化共生にかかる主な課題

	防災	教育	情報提供	相談	地域交流	人権啓発
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時の交通情報・避難情報などが外国人に届かない ・外国人の防災知識が不十分 ・外国人避難者の受入体制が整っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学習の指導待機の状態が恒常化 ・児童・生徒の学習言語が未修得のまま卒業する傾向 ・多言語、多文化に触れる学習機会は少ない ・多様化する日本語学習ニーズに対応できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供拠点は大阪国際交流センター1か所 ・対応言語は英語、中国語、韓国・朝鮮語が基本 ・通訳は電話による簡易通訳が基本 ・ホームページは自動翻訳対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な生活相談に対応するワンストップ窓口はない ・対応言語は英語、中国語、韓国・朝鮮語が基本 ・一部の相談対応のみ同行通訳が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所づきあいは低調 ・積極的に留学生の交流を進める学校もある ・ごみ出しや騒音など生活マナー違反への苦情 ・多様化する日本語学習ニーズに対応できていない(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘイトスピーチ ・職場、学校、日常生活におけるレイシャルハラスメントや、いじめ、からかい ・外国人に対する否定的な意識の顕在化
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語支援センターの開設・運営 ・平時からの防災に関する教育、啓発、情報提供 ・外国人避難者の受入を想定した防災訓練やボランティアの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導の充実 ・多様な相談への対応 ・多文化共生教育の展開 ・日本語学習支援ボランティアの人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信手段の多様化 ・対応言語の充実 ・ICTを活用した通訳、翻訳サービスの活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生活相談の機能確保 ・対応言語の充実 ・ICTを活用した通訳、翻訳サービスの活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域レベルでの顔の見える関係づくり ・留学生の地域活動への参加促進 ・生活文化に対する相互理解 ・日本語学習支援ボランティアの人材育成(再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘイトスピーチ条例による対処 ・人権相談 ・多文化理解や交流イベントの展開

急増する外国人への対応は急務